

神山認定こども園

一貫研の活動と天から与えられた宿題をやりとげようとする子ども達

教育・保育要領が改正され、幼児教育と小学校以上の教育を貫く共通の柱「資質・能力」が明確になりました。

小学校との接続の重要性が記された今回の改定は、一貫研の意義を更に高めたものと言えます。

また、この「資質・能力が育つ」教育・保育のありかたとして、カリキュラム・マネジメントが示されました。そしてその実践のコアの部分は、プロセスとしてその中で「環境を通しての保育」、「主体的生活」、「自発的遊び」、「保育者の援助」の留意点が述べられています。

また、保育指針で示された3つの視点は、我園の保育理念であるモンテッソーリの三角形（図1）に符合するものでした。

私たちの実践では、成長にとっての適切な環境は特別な意味を持っています。

子ども期の人間が成長の完成へ向かっていくその過程は、「自然によってたてられたプログラム」のように正確に決められています。子ども達が自らの発達計画や発達法則に適した環境が与えられればそれに集中し、その環境にかかわろうとします。子ども達は「天から与えられた宿題をやりとげようとし、エネルギーを注ぎこむのです。」その姿は、とても尊いものに思え、環境を通しての保育のすごさを実感することが出来ます。

そうした繰り返しの中で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の方向性が見えて来ます。また、一貫研のねらいも実現できるものと思います。

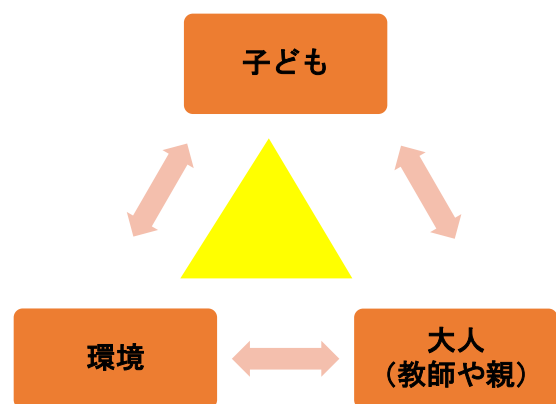


図1モンテッソーリの三角形

子ども達の育ちは、子ども自身によってなされるべきで、大人の役割は、それがなされる環境を準備することと、子どもがその環境とうまく交わることができるように援助することです。

講師の先生のお話を
興味深く聴く姿



楽しみにしていた小学校の
お兄さん・お姉さんとの交流



モンテのお仕事に集中して
取り組む子ども達

